

とを、この部会でも共有した方がいいと思う。

【北山氏】

- ・防災のことや他の方の提案を、部会としてどうしていくかを返答しないといけないということか。

【坪田氏】

- ・8月30日に運営委員会があるため、その時に居宅支援部会では、今現段階で、こういう事が共有されているといった報告ができれば良いと思う。

【北山氏】

- ・次年度に向け何をしていくかとなると、11月にアンケートの結果が出て、たとえば、生活介護の事業所であれば、こういう事が浮き彫りになると、1月の部会で、次年度は生活介護から抽出されたことがクローズアップされていくスケジュールだと思った。見立てが分からないので、何をいつまでに協議した方がいいのか分からない。

【橋本氏】

- ・その全体会で出たのは地域連携推進会議に参加してほしいなど、居宅部会としてどのように考えているかを教えてほしい、なのか。

【坪田氏】 部会で話ができているのか、知っているかということで、居宅支援部会の話題として挙がっているかという意味だと思うので、それについて何回か話した方がいいと思う。グループホームは、連絡協議会の方で色々動いてもらっていると思うため、その計画を聞きながらでいいかと思う。地域連携推進会議の方は介護保険と同じタイプでいくのかどうかは分からないが。

【大角氏】

- ・居宅部会で今取り組んでいる地域の理解促進というところが、一緒になってできると、部会としてはツールとして使える部分ではないか。そういう情報は居宅部会としても持っている地域への働きかけにうまく使えないか。

【北川氏】

- ・令和7年度からの地域連携推進会議のことが情報不足で、個人的には知れてよかった。介護保険の地域のグループホーム、地域密着型の事業所では地域連携推進会議を開いている体制になっている。私はその当時は地域包括支援センターの職員として参加していた。グループホームとか小規模の抱えている課題や、実態というのがよく見えてきて、連携しやすくなったのを実感している。障害のグループホームの運営についても、地域連携推進会議がどれぐらいの頻度で開かれ、誰が参加するかは、行政の方が管理していくと思う。しかし、行政の方が管理していく中に、居宅支援部会が手伝いできることがあるといいなどは感じた。

【部会長】

- ・地域連携推進会議は介護でしていることを障害でもやっていくと理解している。年に1回以上というような形で取り組んでいきたい。7年度に義務化になりますよということを皆さんにお知らせしていく。災害については、アンケートの結果を踏まえながら、皆さんに意見を聞いていきたい。

2. 各WGの進捗報告等について 資料 1～2—4参照

【黒田氏】 ※資料1を参照しながら説明

- ・次回の11月頃まで部会の時には大きく2つ進めていければと思っている。研修会の依頼があれば準備を行い、地域の担当の方と連絡をしてやっていくという形になるが、待っている

意見等

だけではなく、こちらから地区民生委員に連絡をして、研修の周知を行い、できれば開催させてほしいというプッシュする形でのアナウンスという話が出ている。具体的にはこちら事務局の方でほくせいの方が民生委員、児童委員の定例会の方へのアナウンスでやる予定。

【部会長】

- ・ 前回資料も渡ししているが、基本的なベースは同じくして専門分野のところを入れていくというような形で行う。依頼を受けることがある場合は、ぜひご協力をお願いしたい。

【黒田氏】

- ・ 特にワーキングメンバーの方に了承してもらいたい、一応こちらの方からはまず「九頭竜」「川西」「森田」の方にアナウンスして、研修会担当の方で計画を立ててもらいたいというプッシュをする予定である。できるというような形になれば、ワーキンググループの方にフィードバックして、どういう資料作りしていいか、誰がやるのか。前は北山氏が主になってもらったが、誰がイニシアチブを取っていくのかについては、詰めていく必要があると思う。黒田の方からワーキンググループメンバーや事務局として返して、意見いただく形を取らせてもらおうと考えているが、それでよろしいか。

【丸山氏】

- ・ 民生児童委員でなく福祉委員も対象にできると書いてあるが、民生児童委員を中心にするという事でいいと思っており、福祉委員はもっと先でもいいと思う。地区によってはやり方はバラバラであるが、旭地区社協では毎年1回福祉委員対象に研修会をしている。毎年の研修の中の1つとして20分ぐらいなら入れられるかもしれないという話になった。将来的なこととして地区の社協の研修の中に入れられる余地はあるかと思う。

【長谷川氏】

- ・ 地区の社会福祉協議会の研修には福祉委員への研修もある。市社協としては福祉委員と民生委員の連携の部分も大事な事。地区は市内に49あるので、エリアをどうしていくか。手を上げてきたところの地区といっても、どういう風にするかといかはワーキングの中で話もしていけるといいかと思う。

【城戸氏】 ※資料2を参照しながら説明

- ・ 作成したアンケート等は、資料2-2から2-4までになっている。次回部会までの予定として、事業所等へのアンケート配布を9月上旬頃で、回答期限と集計を発送から2週間以内で集計後の分析はワーキンググループで行う。10月中に行い、結果を次回の部会でご報告したい。
- ・ アンケート調査の目的は、障がいのある人の在宅生活を取り巻く課題の把握と、課題の解決に向けた協議を行うため。調査対象施設としては、日中活動系の事業所と訪問系の事業所で、施設入所や児童の方ところは省いている。調査方法はQRコードを読み取ってやっていく。資料2-3の中で修正あればご意見いただきたい。資料2-4のところが実際の調査票になる。項目を見て付け足した方がいいのではないか等の意見があればお願いしたい。
- ・ 事業所に答えやすいような、難しくないアンケートを目指して集計率を上げていきたいとの思いがある。法人で一つではなく、各サービスで答えてもらうような形になるので、回答者は基本的にサビ管の方か、サビ管がない事業所は管理者など代表1名が回答してもらう形で案内したい。

報告

【長谷川氏】

- ・ 問7番については、地域交流についての捉え方というか、通いで来ている利用者だとその

意見等

利用者が住んでいる地域もある。近所付き合いというか、地域交流という考え方もあってもう少し細かいアンケートとる上でいいのでは。近所付き合いについての何か困り感的なところとか、あるいはその地域の人との付き合いとかが気になった。

【黒田氏】

・地域交流のことについては具体的にイメージがしやすいようにという事か。

【長谷川氏】

・さらに何を知りたいかによって、もう少し具体的な質問項目の方がいいのかもしれない。

【部会長】

・利用者が抱えている問題だから何十通りも全部チェックが入るかもしれない。

【城戸氏】

・地域交流という書き方は「近所付き合い」に変えようかと思う。

【橋本氏】

・サービスに繋がっているからサービス提供事業所になり、引きこもりで繋がらない方もいると思う。例えば精神など医療の方も多いので、今回はサービス事業所に絞っている意図があるのか。

【城戸氏】

・サービスにつがってない方への調査となると規模が大きいのので、今回は絞って考えたい。

【竹澤氏】

・アンケート調査対象施設に、相談支援事業所が入っていないのはなぜかを教えてほしい。

【大角氏】

・相談支援事業所が関わっているイコールこの調査対象の事業所が関わっている。一緒の方の答えが2か所から来るので、サービス提供している事業所のみとした。

【竹澤氏】

・相談支援専門員が繋げる時に、なかなか繋がらない利用者、悪く言うとたらい回しに合っているような利用者と、その辺の課題が抽出されにくいのではないかと想像するが、その辺は取り上げなくてもいいか。

【大角氏】

・事業所が生活介護とか、就業が関わり、プラス居宅が関わっていて、どうしても正確な数は出てこない部分はある。サービスに繋がっていないから地域で取り組むのかということと、うまく繋がっていないが、何か困ってそうだなと感じる・今回その地域の課題として、何か取り組みのヒントをもらおうというアンケートだと勝手に認識をしている。

【城戸氏】

・サービス提供事業所から見利用者の困り感の調査ということで、今回は調査をしてそこから抽出する課題を踏まえて、またステップアップできればと思っている。

【坪田氏】

・今のサービスに繋がってない方の課題のことについては、相談ミーティングや委託ミーティングの中で課題としては上がっていて、地域課題としてどう検証していくかということは今まだ検討中なので、少し状況がわかってきたら皆さんに共有していこうと思う。

【竹澤氏】

・相談に繋がっている場合はサービス提供されている。相談でサービス提供している中での利用者の困り感があるなら、つけたした方がいいのかなとは思う。

【坪田氏】

- ・分けた分析をしておかないといけない。

【竹澤氏】

- ・例えば、相談員が関わっていてグループホームを探していると、グループホームの数がなかなか足りないのどこにも入居できない。という利用者の困り感があった時に、グループホームの事業所からだけの回答だと、グループホーム不足というニーズは上がってこない可能性がある。相談員が関わっている中で感じた利用者が困っていることも必要なかなと思う。

【坪田氏】

- ・とても大事なことを言ってもらっている。当然グループホームがあっても入れてもらえないとか、いろんな課題があるが、それをこの部会で拾うのは難しいと思った。数としては出てはくるので、まずは第1段階として集めるにしても、その後の分析は難しいなと思う。

【部会長】

- ・地域に暮らす人たちの課題が見えてこないことについて、地域課題を抽出することなので、相談のところの意見も無視できないのではないかというような意見だと思う。相談ミーティングで上がった地域課題が部会にはまだ降りてきてはいない状況にはあるが。

【竹澤氏】

- ・グループホームの不足は想定しただけの話で、相談支援事業所の対象も入れてアンケートをすると、いろんな課題が上がってくるかなと思うので、グループホームを具体的にどうこう協議しましょうっていうことのために入れるわけではない。

【北山氏】

- ・また課題がぼやけないならいいなと思う。居宅部会として次の年の課題を、ここ1・2年を探し続けているような状態で時間を過ごしていると感じている。課題を抽出したいのがこのアンケートの本当の狙いなので、幅を広げることや何かすることによって課題がありすぎる状態にならない方がいい。

質問項目について、親亡き後についてはどこにチェックが入るのかなと思ったが・・・。

チェックはどこかに付けて、具体的なことは下欄に書くということでしょうか。

※会場から頷きで了解を得る。

【中村氏】

- ・相談の方とか他のサービスに繋がっていないような情報というか課題・どんなものが必要かというのは必要だなと感じた。集計に関しては、excelに落として個別に分析とかもできると思うのでいいのではないかなと思う。集計した後、地域課題を抽出し、課題に対してどんなアプローチをするかが事例検討会であって、個別に検討するといろいろな方法も考えられると思うので、いいご意見だなと思った。

【部会長】

- ・では、相談事業所も対象とすることにしたい。

【城戸氏】

- ・では、そのような形で。メールの発送などは基幹が行ったり、課題の抽出の整理なども、ワーキンググループのメンバーで行ったりなど、分担して行っていきたい。

【竹澤氏】

・災害支援については、協議しなくてよいのか。

【北山氏】

・今すぐの返事を求められてはいない。次年度に向けて考えていくか否かの投げかけだったかと。宿題でいいのでは。

【部会長】

・今回のアンケート項目の中に災害に関しては含まれているということなので、結果については検討していく。11月の会議で内容報告できると思うので、よろしくお願ひしたい。

【宮永氏】

・要支援者リストについては市危機管理課がメインだとは思いますが、福井市から自治会には要請が出ていないと思う。リストを作るとなると、障がい者を知らない自治会長・福祉委員も結構多いので、そういったところをうまく行政指導をしてほしい。

【坪田氏】

・事務的なことだが、地域移行地域定着部会と協力しながらやっていくということだが、部会は9月3日にあり、その前に8月20日打ち合わせ事務局会議になる。居宅支援部会として投げかけるようなことは特にないか。どなたかがダイレクトに伝えるのであれば、それはそれでいいが、こういった連携になるのかなと思った。

【黒田氏】

・連携のことについては、事務局の方にフィードバックすると話させてもらったが、そのタイミングで地域定着にもアナウンスできるといいかなと思っている。事務局の方に1回戻してどう連携するかというところは、できれば部会長にお願いできるといいなと勝手に思っていた。揃えてやるなら手順変更や、だぶるところがあればもっとこうするといいいった意見が出てくると思う。吉村部会長の方からできれば伝えてもらうという形でお願ひしたい。

※部会長から了解を得る。

【城戸氏】

・意見がなければこれで部会を終了する。

次回は11月14日予定